

大阪府私立高等学校学校経営推進補助事業 採択について

【本事業の目的】（「学校経営推進費実施要項」より）

本事業は大阪府教育委員会及び大阪府知事が、大阪教育振興基本計画を踏まえて指定する教育課題に対し、PDCAサイクルによる高い効果が見込まれる事業計画を提案する特定の学校に対して、学校経営推進費を経費として予算配当又は補助する事業を行うことにより、校長の学校マネジメントを強化し、もって当該の学校の教育目標を達成するとともに、府全体の教育力を向上することを目的とする。

香ヶ丘リベルテ高等学校

計画名：数学「つまずきゼロプロジェクト」を軸とした取り組み

本事業には、府立高校・私立高校、合わせて90校から応募があり、内50校が書類での一次審査を通過し、二次審査を経て、**最終的には26校が支援校として決定**されました。

私立の高等学校としては、本校を含む2校のみが選ばれました。

本校のこれまでの「数学」教育の実績と、これからの課題に取り組む姿勢を評価していただいたものと思っております。

これから3カ年（25年度・26年度・27年度）に渡り、本事業を活用させていただきながら、ますます教育内容の充実に努めて参ります。

《計画の概要》

- ① 「校内数学検定」指導と受験の促進。指導教材「数学問題集」の活用。
- ② 日本数学検定協会の「数学検定」の受験促進と昇級。
- ③ 「寺小屋」での数学に対する動機づけ。
- ④ 「自分専用問題集」の作成と活用。内容は計算の習熟と、つまずき調査を併せ持ったものにする。「2穴リングファイル」による「自分専用問題集」の集積と理解促進。
- ⑤ 「生き生き数学」によるアンダンテコース1年生への指導(3か年)
- ⑥ 「書画カメラ」「PC機器」等による授業内容の視覚化による理解度の向上。
- ⑦ 他教科とのコラボレーションによる寺小屋イベントを通して生徒のモチベーションの向上。
- ⑧ 大阪教育大学 柳本先生の協力による「つまずき調査」の定期的実施。
- ⑨ 「PDCAサイクル」による評価と見直し(つまずきプロジェクト委員会)
- ⑩ 研究期間(3年)の後、全校生徒への取り組みとして発展させる。

学校経営推進費 事業計画書(概要)

1. 事業計画の概要

取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪教育大学柳本数学研究室監修：つまずき調査による生徒の数学理解度の向上 ・基礎学力の定着度を測る校内数学検定と、学力向上を目指す日本数学検定協会の数学検定の昇級者数の増加 ・寺小屋において、数学に対する動機づけの向上（寺小屋：全学年の希望生徒を対象に放課後に行われている数学の勉強会）
計画名	数学「つまずきゼロプロジェクト」を軸とした取り組み

2. 事業計画の具体的内容

学校経営計画の 中期的目標	本校生の数学力向上を目指し、3年間を通して数学教授法の研究開発をアンダンテコース生・「寺小屋」参加生徒を対象に行い、本事業終了次年度には、蓄積されたノウハウを全校生対象に広げて実施し、さらなる数学教育の充実を図る	
事業目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「つまずき調査」(分析協力：大阪教育大学 柳本朋子)による生徒の数学理解度の向上 毎年の調査において、生徒のつまずきについての現状把握とその打開策を検討する ・基礎学力の定着度を測る校内数学検定と、学力向上を目指す日本数学検定協会の数学検定における昇級 本校独自の数学問題集を活用して、基礎学力の定着をはかる。数学検定への受験・昇級を目指す生徒の育成 ・自分専用問題集の完成 自分のつまずきを自ら気付く、学び、克服する「自学」の取り組みを促進する ・寺小屋において、数学に対する動機づけ さまざまなイベントを開催し、数学の楽しさを気付く機会にしていく ・アンダンテコース・寺小屋参加生徒での研究の後、3年後には全校生徒に向けての取り組みと発展させる 	
取組内容	前年度	<ul style="list-style-type: none"> ・本校独自の数学検定・問題集作成 ・つまずきゼロプロジェクト開始 「つまずき調査①」(分析協力 大阪教育大学 柳本朋子)にて現状把握 ・寺小屋やイベントの活性化（タイムアタック、フリーハンド王） ・数学科研修合宿（7月実施）（グラフや図形の正確な板書が生徒の理解度向上につながることを確認）
	初年度	<ul style="list-style-type: none"> ・校内数学検定→日本数学検定協会の数学検定による学力向上 ・つまずきゼロプロジェクト 「つまずき調査②」(分析協力：大阪教育大学 柳本朋子)にて現状把握 自分専用問題集制作① ・公開授業にて、機器の使用における活性化（数学科教員間で実施） ・寺小屋（月2回実施）イベント（年3回実施）の活性化・コミュニケーション数楽（年3回実施）（数学科教員間で実施） ・他教科とのコラボレーション（随時実施）：美術→作図 ・数学科研修合宿（7月下旬実施）→中間総括 ・PDCAサイクルによる評価と次年度に向けての改善（2月実施） （つまずきゼロプロジェクト委員会・数学科全教員による）
	2年目	<ul style="list-style-type: none"> ・校内数学検定→日本数学検定協会の数学検定による学力向上 ・つまずきゼロプロジェクト「つまずき調査③」(分析協力：大阪教育大学 柳本朋子)にて現状把握・自分専用問題集制作② ・公開授業にて、機器の使用における活性化（他教科教員にも公開） ・寺小屋（月2回実施）イベント（年3回実施）の活性化 コミュニケーション数楽（年3回実施）（他教科教員にも公開） ・他教科とのコラボレーション（随時実施）：国語→問題読解力 ・数学科研修合宿（7月下旬実施）→中間総括 ・PDCAサイクルによる評価と次年度に向けての改善（2月実施） （つまずきゼロプロジェクト委員会・数学科全教員による）
	3年目	<ul style="list-style-type: none"> ・校内数学検定→日本数学検定協会の数学検定による学力向上 ・つまずきゼロプロジェクト「つまずき調査④」(分析協力：大阪教育大学 柳本朋子)にて現状把握・自分専用問題集制作③ ・公開授業にて、機器の使用における活性化（保護者にも公開） ・寺小屋（月2回実施）イベント（年3回実施）の活性化・コミュニケーション数楽（年3回実施）（保護者にも公開） ・他教科とのコラボレーション（随時実施）：理科・家庭科→量・割合 ・数学科研修合宿（7月下旬実施）→全体総括 ・PDCAサイクルによる評価と次年度に向けての改善（2月実施）（つまずきゼロプロジェクト委員会・数学科全教員による）
	取組みの 主担・実施者	主 担：つまずきゼロプロジェクト委員会（校長（委員長）・副校長・教頭・数学科主任） 実施者：数学科全教員・他教科コラボレーション教員

